

親善友好都市マウイ郡等への訪問について

2026年（令和8年）9月27日～10月3日の日程で親善友好都市マウイ郡等を訪問しました。

【参加議員】

連石武則（議長）、能宗正洋、石口智志、奥陽治、八杉光乗、小山友康

主な活動内容は次のとおりです。

2026年（令和8年）9月28日（月曜日）〔日本時間：9月29日（火曜日）〕

ハワイ州の正装であるアロハシャツに着替え、在ホノルル日本国総領事館の長徳総領事との会談に臨みました。

会談では、ハワイ州の現況や国際情勢、この地に深く根差した日系移民の歴史についてなど多岐にわたるテーマで意見を交換しました。

異なる背景を持つ人々が共生するハワイの社会に触れ、多様性に富んだ社会においては、個々のアイデンティティを尊重し合うことこそが不可欠であるとの認識を改めて共有しました。



（総領事との会談　総領事は左から3番目）

2026年（令和8年）9月29日（火曜日）〔日本時間：9月30日（水曜日）〕

午前中、2023年8月の大規模火災で甚大な被害を受けた、マウイ郡ラハイナ地区及び被災者復興支援施設（OFFICE OF RECOVERY）を視察しました。

まず最初に、ラハイナ地区を一望できる高台にて、マウイ郡職員から復興状況について説明を受けました。インフラの整備や仮設住宅の建設が進んでいる一方で、住民の帰還は途上にあり、人口は被災前の約半数に留まっているとのことでした。また、海岸沿いの建物や船の係留所の整備完了にはあと約3年を

要する見込みとのことで、完全復興には長期的な視点が必要であることを改めて認識しました。



(ラハイナ地区 高台にて)



(ラハイナ地区 仮設住宅前にて)



(ラハイナ地区 海岸沿いの被災建物)

次に訪問した被災者復興支援施設では、住居再建等の具体的な支援内容に加え、復興における精神的サポートの重要性について説明を受けました。

職員の方々は、行政サービスに留まらず、被災者が安心して集える「居場所」の提供を重視されており、一人ひとりに寄り添い、共に歩むという姿勢に、真の復興支援のあり方を学びました。



(被災者復興支援施設 OFFICE OF RECOVERY にて)

正午から、マウイ郡庁にて歓迎昼食会及びリチャード・T・ビッセン郡長を表敬訪問しました。

ビッセン郡長からは、2023年に発生した大規模火災の際に福山市民の皆様から寄せられた義援金や、福山市からの数多くの心温まる手紙やメールに対し、深い謝意が表されました。そして、両市が長年にわたり築いてきた友好の歴史を振り返り、今後もこの固い絆を未来へと繋いでいきたいとの強い期待が述べられました。

連石議長からは、ラハイナ地区の甚大な被害状況を目の当たりにし、その深刻さを痛感すると同時に、困難な状況下で復興に懸命に取り組む人々の強さと決意に深く感銘を受け、勇気づけられたことを述べました。その上で、ラハイナの一日も早い復興を心から祈念していること、また、マウイ郡フェアのパレードへの参加が、マウイの皆様への力強い支援の表明となり、復興への希望の光を少しでも強める一助となることを願っている旨をお伝えしました。

続いての懇談の中では、復興活動の現状と課題についてもお話を伺うことができました。





(マウイ郡歓迎昼食会及び表敬訪問 マウイ郡長は左から7番目)

2026 年（令和 8 年）9 月 30 日（水曜日） [日本時間：10 月 1 日（木曜日）]

午前中、二世退役軍人記念センター（Nisei Veterans Memorial Center：NVMC）等を訪問しました。

最初に、NVMC にて、第二次世界大戦中に「敵性外国人」という差別に苦しみながらも、アメリカへの忠誠を貫き多大な功績を残した日系人部隊の歴史と、戦後ハワイ社会の発展に貢献した「継続的な奉仕」の精神について学びました。

続く意見交換では、NVMC 側と福山市長、議長が挨拶を交わし、二世の崇高な精神への敬意を共有するとともに、両市の友好をさらに深めていくことを確認しました。さらに、文化や教育分野での交流も議論のテーマとなり、日本からの幼稚園児が訪問した際の実績についても紹介されました。

また、文化・教育・地域交流を通じた相互理解の深化を目的とした今後の取組についての提案も示されるなど、活発な意見交換が展開されました。



(Nisei Veterans Memorial Center：NVMC にて)

訪問の最後には、同センターが運営するプリスクール（未就学児用の教育・保育施設）のこどもたちや高齢者デイケアセンターの利用者と交流し、展示施設（Leonard Y. Oka Education Center）では、二世退役軍人の貴重な遺品や記録を視察しました。



(NVMC 運営の高齢者デイケアセンターにて)



(Leonard Y. Oka Education Center にて)

午後には、マウイ郡議会を訪問し、意見交換を行いました。

アリス・L・リー議長による歓迎の挨拶に続き、議長が挨拶に立ち、温かい歓迎への謝意を述べるとともに、この対話を通じて相互理解を深め、両コミュニティの発展に貢献したいとの期待を語りました。

意見交換では、まず大規模火災からの復興状況について質問し、ライフラインの復旧や財政支援の実態等について詳細な説明を受けました。

ライフラインの復旧については、電力は公共事業委員会によって規制されている民間企業を通じて供給されていますが、火災の後、公共安全のための計画停電プログラムが行われています。また、送電線が1本しかなく安定的な電力供給の面での課題があるため、余裕のある多くの住民がバッテリーバックアップ付きの太陽光発電システムを購入しました。水道はマウイ郡による公的管理を強化している段階で、将来的には再生水利用や貯水池建設も検討していることが示されました。

財政支援については、FEMA（連邦緊急事態管理庁）などから巨額の資金が提供された一方で、被災した個人が支援金を受け取る際の手続きの煩雑さが課題として挙げられました。また、行政の支援だけでなく、被災者に直接寄附を送り支援することができる仕組みができたことや、郡が独自に、保険で不足する再建費用を補填するプログラムを実施していることなど、多角的な復興支援の実態が共有されました。

マウイ郡議会側からは、福山市議会の概要や福山市の現状について質問がありました。

福山市における現在の課題として交通渋滞を挙げ、経済発展に伴い増加した自動車に対し、道路拡張が困難である現状の説明を行いました。また、主要産業が鉄鋼業、そしてデニムを中心とした繊維産業、造船業などであることなどの紹介を行いました。

災害復興、都市問題、議員の役割など多岐にわたる活発な議論が交わされました。





(マウイ郡議会議場にて)

続いて、ハワイ大学マウイ校主催の歓迎会に出席しました。

ハワイ大学マウイ校にて開催された歓迎会には、クラマヌ・イシハラ副学長をはじめとする大学関係者並びに州議会トロイ・ハシモト上院議員、マウイ郡議会ゲイブ・ジョンソン議員など、多数の方々が出席されました。

冒頭、登壇されたハシモト上院議員は、2012年から続く福山市との個人的な関わりや、昨年の「福山ばら祭」訪問の思い出を回顧されました。長年にわたる交流の歴史を振り返りつつ、今後は学生交流をはじめとする教育分野での連携を一層深めたいとの強い期待を述べ、私たち訪問団を温かく迎え入れてくださいました。

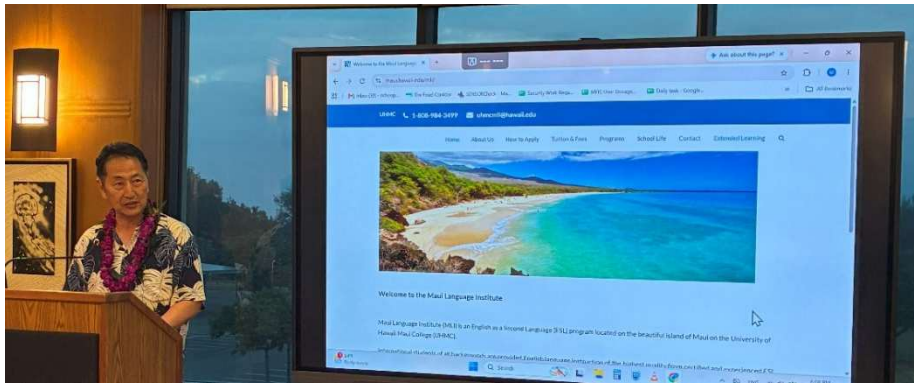
続いて、JETプログラムを通じた日本居住経験を持つジョンソン議員が挨拶に立ち、日本文化に対する深い理解と親愛の情を語られました。同議員は、従来の教育・文化交流を基盤としつつ、今後は雇用も含めた経済交流の可能性を探りたいと提案されるとともに、日本の「ソフトパワー」が持つ魅力を強調し、今後のさらなる発展への展望を述べられました。

また、副学長からは、同校の英語研修施設にて呉工業高等専門学校、中央大学や富山大学の学生を受け入れている現状が報告され、英語教育を通じた協力関係をさらに強化したいとの提案がありました。

議長は、心温まる歓迎への謝意を述べるとともに、次世代育成と国際交流の重要性を強調し、この訪問が福山市とマウイ郡、ハワイ大学マウイ校との間に、末永い友情を育む新たな契機となることを願う旨をお伝えしました。

この歓迎会は、双方がこれまでの友好関係を再確認する場となっただけでなく、教育・文化・経済といった多分野にわたる未来志向の協力を展望する貴重な機会となりました。

挨拶終了後は、終始和やかな雰囲気の中で、双方の親交を深める有意義なひとときとなりました。



(ハワイ大学マウイ校にて)

2026 年（令和 8 年）10 月 1 日（木曜日） [日本時間：10 月 2 日（金曜日）]

午前中、マウイ郡南西部に位置するワイレア地区を視察し、同地区における都市計画について、管理組合職員等から説明を受けました。

1987 年から計画的に整備が進められてきた同地区の最大の特徴は、土地・物件所有者がコミュニティ組合の会員となり、その会費を財源としてエリア全体の運営を担うという独自のシステムにあります。組合はこの財源をもとに、衛生管理から景観維持、セキュリティに至るまで質の高いサービスを一元的に提供。また、建物の外壁改修にも事前承認を要するなど厳格なデザイン規制を適用することで、地区全体の統一された美しい景観を守っていました。

こうした包括的な管理体制こそが、ワイレアならではの調和の取れた景観を創出し、その価値を持続的に高めている要因であることを確認できました。





(Wailea Resort Association にて)

午後には、マウイ郡フェアのパレード等へ参加しました。マウイ郡から記念品としていただいた、「ラハイナへの帰還」を願うメッセージが込められた赤いTシャツと福山市の法被を着用し、手にはマウイの皆様への親愛・福山市への来訪を促すメッセージと折ばらで装飾した団扇（うちわ）を携え、沿道に集まった多くの皆様から温かいご声援をいただく中、マウイ郡との友好を胸に行進しました。

パレード後には、議長がメインステージに登壇し、集まった皆様への挨拶の機会をいただきました。

挨拶では、まず歴史あるマウイ郡フェアに招待いただいたことへの感謝を述べました。そして、長年の交流を通じて、マウイ郡と福山市は喜びも悲しみも分かち合う「オハナ（家族）」のような深い絆で結ばれていることに触れ、この素晴らしい関係が今後も変わらず続いていくことへの期待をお伝えしました。





(マウイ郡フェアパレード及びステージ)

2026 年（令和 8 年）10 月 2 日（金曜日）〔日本時間：10 月 3 日（土曜日）〕

帰国日（当日）早朝にもかかわらず、イザベラ郡長夫人をはじめ多くの関係者の皆様が見送りに駆けつけてくださり、改めてマウイ郡と福山市との間に築かれた絆の強さを感じました。

【この度の訪問を終えて】

この度の訪問は、マウイ郡長及びマウイ郡議会議長から、ラハイナ視察、マウイ郡フェア並びに議会懇談会へのご招待を賜り実現しました。本訪問を通じて、多くの貴重な示唆と深い感銘を得ることができました。

2008 年 5 月の親善友好都市提携以来、福山市とマウイ郡は相互訪問を重ね、その友好を育んできました。11 回目となった今回のマウイ郡への訪問は、単なる儀礼的な表敬に留まることなく、未来に向けた新たな協力関係を構築する上で、極めて貴重な一歩になったと確信しています。

特に心に深く刻まれたのは、2023 年の大規模火災で甚大な被害を受けたラハイナ地区の視察です。報道を通じて現地の状況は把握していましたが、実際に目の当たりにした復興への道のりは険しいものでした。

しかし、そのような困難な状況下にあっても、住民の方々が力強く前を向いて復興に取り組む姿、そして被災者に寄り添い「居場所」を提供しようと尽力する支援者の皆様の姿勢に、真の復興とはインフラの再建だけでなく、人々の心の再生と共にあることを痛感させられました。また、福山市民の皆様からの支援に対し、ビッセン郡長から寄せられた心からの感謝の言葉は、私たちの思いが確かに届いていたことの証であり、今後も長期的な視点で支援を続けることの重要性を再認識しました。

二世ベテランズ・メモリアル・センター（NVMC）では、差別に苦しみながらも、その忠誠心と「継続的な奉仕」の精神でハワイ社会の発展に貢献した日系二世の崇高な歴史に触れ、深い感銘を受けました。この精神こそが、多様な人々が共生するハワイの礎を築いたのだと感じ入りました。

さらに、計画的に整備されたワイレア地区の視察は、私たちのまちづくりに新たな視座を与えてくれました。コミュニティ全体で高い水準の景観や環境を維持・管理していく仕組みは、持続可能で魅力ある都市を形成する上で大いに参考になるものです。

マウイ郡フェアのパレードでは、沿道から寄せられる温かい声援に包まれながら、福山市とマウイ郡との固い絆を改めて実感しました。この絆は、先人たちが長年にわたり築き上げてきたかけがえのない財産です。

今回の訪問で得た多くの学びと感動を、福山市の防災対策、多文化共生の推進、そして魅力あるまちづくりに活かしていくよう、議会としても積極的に働きかけていきたいと考えています。